

第48回維持管理・環境管理専門委員会

議 事 録

●日時 : 2023年3月17日(金) 10:00~11:30

●場所 : WEB会議

●出席者 : 堂本委員、川島委員、川村委員、宮川委員

荒川上流河川事務所 濱田専門官

日水コン・日本生態系協会設計共同体 中村、坂本、田中、田邊、藤本

●資料

資料-1. 前回の議事録

資料-2. 2022年度の協議会と本委員会の経過

資料-3. 2022年度の維持管理活動の報告

資料-4. 2022年度の連携・協働活動の報告

資料-5. 2023年度の協議会と本委員会の予定

資料-6. 2023年度の維持管理活動計画

資料-7. 2023年度の連携・協働活動の計画

資料-8. 埼玉版SDGs推進アプリ『S3(エスキューブ)』の活用の提案

【議事結果】

- ① 外来種の駆除活動を行う場合、正確な記録を残す必要があり、その手段の一つとして大学の研究機関との連携が上げられた。本案件は今後、生態系モニタリング専門委員会と連携し、議論する必要がある。
- ② 中池の防災航空隊訓練所付近の休耕地が農地整備されている。3月22日の維持管理作業後に時間があれば現場を確認する。
- ③ 2022年度TDA連携にて制作したリーフレットを4月29日開催「かわじまはるかぜウォーキング」に活用する。リーフレットは、後日事務局より協議会委員へ送付する。
- ④ 埼玉版SDGs推進アプリ『S3(エスキューブ)』を活用していく方針について合意を得た。協議会として利用者登録することの可否について、運営委員会や協議会にて協議していく。
- ⑤ 企業との連携や協働を促進するため、荒川下流河川事務所の事例(アドプトプログラム)や、ネーミングライツなど、企業参画の制度の立ち上げなども有効な手段である。協議会で議論していくことが必要である。

【主な議事内容】

- 資料－１． 前回の議事録
(質問なし)

- 資料－２． ２０２２年度の協議会と本委員会の経過
(質問なし)

- 資料－３． ２０２２年度の維持管理活動の報告
 - ・ 外来種駆除のため人が入れれば入るほど在来種が衰退する可能性が指摘された。駆除活動を行う場合は、位置情報やバイオマス量を記録して、将来の活動に活かすことが必要である。
 - ・ 外来種駆除の記録は、大学との連携などがあれば実現していくことができる。今後は生態系モニタリング専門委員会でも検討いただくことが必要である。

- 資料－４． ２０２２年度の連携・協働活動の報告
(質問なし)

- 資料－５． ２０２３年度の協議会と本委員会の予定
 - ・ ２０２３年度の協議会と本委員会の予定について了承を得た。

- 資料－６． ２０２３年度の維持管理活動計画
 - ・ ２０２３年度の維持管理活動計画について了承を得た。
 - ・ 中池の防災航空隊訓練所付近の休耕地が農地整備されている。３月２２日の維持管理作業後に時間があれば現場を確認する。

- 資料－７． ２０２３年度の連携・協働活動の計画
 - ・ ２０２３年度の連携・協働活動の計画について了承を得た。
 - ・ ２０２２年度TDA連携にて制作したリーフレットを４月２９日開催「かわじまはるかぜウォーキング」に活用する。リーフレットは、後日事務局より協議会委員へ送付する。

- 資料－８． 埼玉版 SDGs 推進アプリ『S3 (エスキューブ)』の活用の提案
 - ・ 埼玉版 SDGs 推進アプリ『S3 (エスキューブ)』を活用していく方針について合意を得た。協議会として利用者登録することの可否について、運営委員会や協議会にて協議していく。

- その他
 - ・ 企業との連携や協働を促進するため、荒川下流河川事務所の事例（アドプトプログラム）や、ネーミングライツなど、企業参画の制度の立ち上げ等も有効な手段である。協議会で議論していくことが必要である。